

診療所待合室

第53回全国国保地域医療学会に参加して

名和診療所所長

紙本美菜子

10月4日、5日に松江で開催された「第53回全国国保地域医療学会」に参加しました。全国からおよそ1700人の医療関係者、自治体関係者が集まり、大山町からは保健課と大山、大山口、名和診療所の職員が参加しました。今回の学会のテーマは「医療発祥の地から日本を動かそう」地域包括医療・ケアを全国の都市へ」です。

「地域包括医療・ケア」とは、住民が住み慣れた地域で安心して生活し、保健（疾病予防）や医療、リハビリや在宅ケア、介護・福祉サービスを受けられるように医療・保健・福祉・行政が連携し、患者（住民）に包括的にかわらうとする取り組みのことです。少子高齢化、過疎化が進むなか、これまで全国のいわゆる「へき地」とよばれる地域で取り組んできた「地域包括医療・ケア」を、近々せまりくる都市部の高齢化社会にすすめ広げていこうという発想です。

サメに皮をはがれたウサギを大國主神ががまの穂を巻いて手当てを行った因幡の白兔伝説にちなんで「鳥取県は日本医療発祥の地」と言われており、その大國主神がまつられているのが出

雲大社です。開会式では、まさに大遷宮を迎えた今年の神有月（11神無月）、出雲大社に全国の八百万の神々が集まるさまに例えられ、全国からの参加者が歓迎されました。

研究発表は医療者以外に、町長や保健師など自治体職員や地域の医療を支える住民団体からも多数ありました。

名和診療所は、診療所に通う50代以上の患者さんの介護・看取りに関するアンケート調査について発表しました。アンケート結果から、50代以上の定期患者230人のうち、5割以上の方が「自宅で最期を迎えたい」「家族にも自宅で最期を迎えさせてあげたい」という希望があることがわかりました。この結果をもとに、今後の在宅医療についても努力を続けていきたいと思えます。

市民公開講座では、著書『がんばらない』の鎌田實氏、漫画・ドラマ『Dr.コトー』モデルの瀬戸上健二郎氏、著書『寄りそ医』NHKプロフェッショナルにも出演した中村伸一氏の鼎談があり、どの先生も聴衆の笑いと涙を誘う興味深いお話をされ、大変有意義な講演でした。

医療者は診断や治療などの能力だけでなく、相手の身になって考えること、相手の心をひきつけるお話ができることも大切なだと教わりました。今回の国保地域医療学会で学んだことを活かして、今後も職員一同、よりよい診療に取り組んでいきたいと思えます。

る 涙腺が ゆるいときには 相談を (投稿してくださった方 松原祥恵さん)



(イラスト) 松原祥恵さん

(投稿者の説明)

泣いてばかりでつらいときは、誰かに相談することで気持ちが楽になると思えます。

(文献より)

「勤労者 心の電話相談室」もあります
 〈相談内容〉 仕事上のストレスによる精神的悩み、職場の対人関係の悩み等の勤労者生活を通しての悩みに関する相談

〈対象者〉 勤労者本人及びその家族、上司等勤務先関係者（産業医を含む）

全国32ヶ所の労災病院に併設 無料

山陰労災病院
 電話相談室 電話番号 (0859) 35-3080
 受付時間 月～金 午後2時～午後8時 (祝日を除く)

厚生労働省「職場における自殺の予防と対応」

「こころの健康カルタ」の利用について

日々の暮らしの中で大切にしたい言葉や行動が読み札になっています。心の健康づくりの一環として、このカルタを保健課で貸し出しています。使い方も説明しますので各種会合、地域の行事に活用してみませんか？

<心の健康カルタ、心の健康相談についての問い合わせ先>
 保健課 ☎ 0859-54-5206

こころの健康カルタ…心の健康について正しい知識を持っていただき、より健康な町になることを願って作成しました

こころの健康コーナー

こころの健康に関連する内容を掲載します。

